

1 はじめに

令和5年度の施策を対象とした阿波市教育委員会の点検・評価に関する報告書を第三者の視点で検討・評価を行った。その結果、阿波市教育委員会の諸活動は、誠実かつきめ細やかに推進・実施されており、阿波市の教育行政に大きく寄与されていることを報告したい。

さて、阿波市では阿波市第2次教育振興計画（前期計画）に基づいて策定した全74事業施策が行われている。今回の点検・評価を活用し、今後の課題と方向性をより明確にすることで、教育施策の実施をさらに充実させることが求められていると考えられる。

このような中で、各事業の執行状況や自己評価を見る限り、目標値と実績及び達成率では大きな変化が見られないような事業にあっても、従来通りのやり方で満足することなく努力し、様々な工夫が施されることにより、安定した成果を上げている事業が多くあったように思う。重要施策としても目標値を達成した施策が8つあるなど、着実に成果を上げていることが確認でき、教育委員会のリーダーシップのもとでそれぞれの事業に携わってこられた関係各位の尽力に敬意を表したい。

2 点検・評価について

（1）学校教育について

学校教育については報告書において23の推進施策がある。そのうち総合評価において「十分に成果が上がっている」が11施策、「成果が上がっている」が12施策でありすべての施策においてある一定の成果が見られる。

○生きる力の育成を重視した教育内容の充実

- ・就学前から、認定こども園と小学校の連携がしっかりとれておりスムーズな就学に努めていると思われる。
- ・「確かな学力の育成」では、他の郡市に先駆けて始めた小学校の英語講師や、小・中学校のALTの有効活用にも取り組んでいただいている。世界の情勢や人材不足等の課題がある中で、しっかり人材確保ができています。
- ・「豊かな心の育成」では、人権教育・道徳教育において阿波市人権教育研究大会を毎年開き、授業研究がなされており、これからの人権の重要性を鑑みても是非とも継続してほしい。また、推進施策にないが、中学校での人権課と連携した人権講演会でも、生徒、保護者から一定の成果と評価を得ている。
- ・「健やかな体の育成」では本市小・中学校の肥満度の高さが気になるところだが、今後とも全国体力テスト等の調査結果を検討し、今後における児童生徒の健康増進へとつなげてほしい。
- ・「教職員の資質向上」では、特にICTを活用した効果的な授業方法について一層の研究をしていただきたい。ICT支援員の教員に対する支援も手厚く、各学校においても助かっているという声を聞く。
- ・「食育・地産地消の推進」においては、学校給食センターによる学校への積極的な働き

かけや、「Awa 産 Our 消 My メニューコンクール」など様々な角度から食育推進に関わることができている。

○家庭や地域との連携・協働

- ・市内すべての学校がコミュニティ・スクールとなっている。学校運営協議会を有効活用し、学校と地域が今後一層の連携をすすめ、児童生徒にとって効果のある教育環境づくりに努めてもらいたい。

○心と体の健康問題への対応

- ・阿波市教育支援センターの役割は大きく、複数体制で不登校児童・生徒の学びの支えとなっておりその体制も充実してきた。今後とも、カウンセラーやソーシャルワーカーとも一層連携し児童生徒が学校復帰できるよう様々な手厚い支援をお願いしたい。

○特別支援教育、帰国・外国人児童生徒の支援の充実

- ・市内小中学校とも特別支援学級に在籍する児童生徒が増えている。これは個に応じた教育が進展してきたこともあげられる。他市町村より関係諸機関の連携が図れているようにも感じるが今後とも一層、すべての子が幸せに生きていけるよう努めてほしい。

○安全・安心な教育環境づくり

- ・阿波市青少年育成センターを中心に防犯体制も充実していると考ええる。
- ・通学路の点検等、教育委員会主導で児童生徒の交通安全のための点検が真摯にできている。

○小・中・高等学校の連携強化

- ・小・中の連携、中・高の連携は今までも存在したが、小・中・高の連携とまでは至っていないと感じる。子どもたちが阿波市で一貫して教育を安心して受けやすいものにするためにも創意工夫をしていただきたい。

○学校施設の整備

- ・教育施設の整備は他市町村と比較しても進んでいると感じる。教育に重点を置く阿波市の姿勢と教育委員会の意気込みが垣間見られる。どの学校を訪問しても、バリアフリー化だけでなく美しい環境のもと安心して学習できる環境が整っており高く評価できる。

(2) 社会教育について

- ・社会教育においては47事業が行われている。どの事業においても一定の成果が上がっており生涯にわたる学びの機会の充実が見られた。

○生涯学習推進体制における、学習関連施設の整備充実・機能強化、生涯学習プログラムの整備・提供について

- ・様々な開設講座においてアンケート結果をもとに実施され、令和2年度から比較しても実績値が上昇しており市民のニーズを反映した事業ができている。
- ・図書館の運営についてはさらなる利用者の拡大に向け広報はもちろん、サービスの向上や整備に努めてほしい。

○スポーツ振興について

- ・市民ウォーキングや阿波シティマラソン等のイベントは市民の健康増進の要であり、コロナ禍以降、下火にならないよう、さらなる競技力の向上と交流人口の増加が図られるようお願いしたい。

○スポーツ団体、指導者の育成について

- ・これまで学校が主体となってきた部活動を新たに地域が主体となって活動する地域クラブ活動に移行していく。これらの活動は、地域におけるスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の確保の充実など様々な課題が山積している。現在、休日の部活動は学校単位ではなく、地域クラブ活動として地域で実施する例も出てきており、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を将来にわたって確保していくため、「地域の子供は、学校を含めた地域で育てる」という考えの下、今後進めてほしい。

○芸術・文化振興について

- ・芸術・文化振興については文化財の保存や歴史館の整備、市民の興味関心度合い等、様々な課題があるが、阿波市の文化・芸術について子どもたちが胸を張って語れるような取り組みをしていただきたい。

○青少年健全育成について

- ・青少年の健全育成については、青少年育成センターをはじめとして、学校、行政、地域と連携を図り進めることができている。また、地域を見守る会などが地道で継続的な活動を続けており、問題行動や不登校児童生徒数の減少につながっている。今後も様々な課題を抱えた子どもたちへの支援に向け、学校・家庭・地域・行政が連携を深めながら取組を推進してほしい。
- ・市内の全小中学校において、それぞれ地域に応じた環境美化活動ができており、今後も意義のある活動になるよう支援をお願いしたい。

○人権教育・国際教育について

- ・人権学習啓発の推進において様々な事業が実施されているが、今一度「阿波市人権教育啓発に関する基本計画」を再確認、再認識していただき、差別をなくすための手立てを含め、市民誰もが差別なく幸せに安心して暮らせる施策となるよう取り組んでいただきたい。
- ・国際教育においては、人手不足等様々な要因から外国人の増加が見られる。阿波市においても県内市町村の中で4番目に外国人人口は多く、さらに人口割合の高さでは8市で2番目になる。(R6.7.24 日本経済新聞より)

今後、外国人はもちろん誰もが住みたい町にするためにも多様性を重視する施策が今まで以上に必要になってくると思われる。

3 おわりに

教育委員会の職務内容は、極めて広範囲におよび学校教育のみならず市民生活に深くかわっており、改めて教育委員会の果たす役割と責任の重大さを再認識させられた。

今後、少子化などを含め社会の変化が激しい社会において、子どもたちの未来を創る教育や、教育分野からの街づくり、人づくりは、最重要課題であると考えられる。教育分野の取組は、すぐに結果が出るものではないが、これからの時代に対応することのできる長期的な視野を持った施策と、日々の課題にすぐに対応できる短期的な施策の両面が必要であり、第2次教育振興計画の課題や成果を活かして見直し、次期の施策実施に向けて、教育委員会一丸となって魅力的な教育行政を推し進めて行かれることを期待したい。

はじめに

令和3年度よりスタートした「阿波市第2次教育振興計画（前期計画）」も、令和5年度で3年が経過した。昨年度まではコロナ禍の中にありながら、各種事業の実施方法や運営方法等を工夫しながら継続して取り組み、着実に成果を上げている。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症も5類移行となったこともふまえ、昨年度までの評価事項等を生かしながら、各事業についても今まで以上に活発に展開されたことと思う。

「あすに向かって 人の花咲く やすらぎと感動の郷土・阿波市」の実現に向け、未来を担う人材育成を目指し、「未来をつくる力」「たくましく生きる力」「郷土を愛する心」の基本理念を柱に「学び合う 深め合う 高め合う 阿波市教育」が今後も積極的に展開されることを期待し、令和5年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関する報告について所見を述べたい。

1. 点検・評価について

阿波市第2次教育振興計画で策定した全74事業について、事業ごとに評価シートを作成している。各事業とも、具体施策や実施実績状況が記載されており、PDCAサイクルを生かし実施していることがよくわかるものとなっている。

74事業のうち、A評価は13事業、B評価が61事業となっており、C評価ならびにD評価の事業は見あたらない。A評価の13事業については、必要性や有効性等の項目も高く評価されており、今後もさらなる取り組みの継続をお願いしたい。B評価の61事業の中にも必要性や有効性の項目で高評価を得ているものもあり、あと少しの工夫改善次第ではA評価となりうる事業も多々見受けられた。反対に、同じB評価でも、効率性についての評価が低い事業がいくつか見受けられる。これらの事業については、ICTの有効活用等を取り入れながら事務作業の効率化や負担軽減が図れるように期待する。

次に、今後の事業の方向性を見てみると、「さらに重点化する」となっているのが1事業、「見直しのうえ継続する」となっているのが2事業であり、残りの71事業は「現状のまま継続する」となっている。令和3年度、4年度はコロナ禍にあり、活動を制限・縮小しながら苦労して取り組んだ事業もあると思われる。コロナ禍が開けた令和5年度がまさに本計画の新たなスタートでもあるといえる。令和5年度に実施した各事業の成果と課題をもとに、今後も継続して事業に取り組むことで、次年度以降に着実な成果が表れることを大いに期待している。

2. 主な事業の取り組みについて

（1）学校教育「食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成」

学校教育関係26事業については、A評価が12事業、B評価が14事業となっており、各事業とも十分な成果を上げていると思われる。特に、重要施策の業績評価指数の中にある「中学校保護者の学校教育に対する満足度」は86.9ポイントと、前回の実績値に対し+11.4ポイントと大きく上昇している。これは目標値も大きく上回っており、教職員の真摯な実践ならびに教育委員会はじめ関係諸機関の手厚い支援があったからこそ、このような数値として表れたことと思われる。今後も、阿波市内に通うすべての幼児・児童生徒が安全かつ安心に過ごすことができる学校となるよう継続した取り組みを期待する。

幼児教育では、年齢や発達段階に応じた実践がなされており、幼児の健やかな心と体の育成に取り組み、成果を上げている。また、阿波市独自の英語指導講師や英語担当の保育教諭による英語活動が年間を通じて計画的に実践できしており、幼児が楽しんで外国語や外国の文化にふれることができている。今後も、小学校との連携を積極的に図りながら、社会性や道徳性、豊かな感性等を身に付けていけるように各事業の実施をお願いしたい。

生きる力の育成については、学力の育成、豊かな心の育成、教職員の資質向上、環境教育、食育、就学援助、キャリア教育の各事業がA評価であり、着実にその成果が上がっていると思われる。B評価ではあるが、働き方改革やICT教育の推進等についても、校務支援ソフトを有効活用したり、ICTを活用した授業時間数も、前回比より約1.7倍に増加したりしている現状がある。今後も、生成AI等を含めたICTを効率的に運用し、さらなる成果の向上に努めていただきたい。

家庭や地域との連携についても、学校支援ボランティアによる支援や外部講師を招聘することで成果が上がっている。これからも学校運営協議会をさらに活性化させ、地域とともにある学校づくりを進めていただきたい。

心と体の健康問題への対応、特別支援教育・帰国外国人児童生徒の支援の充実については、多様化する社会の中で、阿波市においても今後ますます手厚い支援が必要になってくると思われる。教育支援センターや青少年育成センターをはじめとする関係諸機関とも連携を図りながら、幼児・児童生徒一人ひとりの実情に応じた取り組みがなされるように期待する。

安全・安心な教育環境づくり、小・中・高の連携、学校施設の整備についてもしっかりと取り組んでいただいている。すべての子が、自分の命は自分で守るという意識と行動力をしっかりと身に付けていけるように、今後も充実した教育活動に取り組んでいただきたい。地域全体の連携強化については「さらに重点化する」との方向性が示されている。各校に設置されている学校運営協議会とも連携しながら、地域ぐるみで子どもの危機管理能力が育成されるように期待する。また、教育施設の充実についても「見直しのうえ継続する」との方向性が示されている。普通教室等へのエアコン設置は完了したが、住民の避難所となる小中学校体育館への空調設備の設置や老朽化しているプール設備などへの対応もお願いしたい。

（２）生涯学習「生き生きと自己実現を図りながら社会参画する生涯学習の推進」

生涯学習推進体制と設備の機能充実については、文化協会をはじめとする関係機関と連携を図りながら、多種多様な講座が開催されている。また、図書館の蔵書数と利用者数とも増えてきており、市民にとってよき学びの場となっている。今後ますますの魅力ある図書館運営を期待する。公民館での活動も活発に行われており、各種講座に多くの方が参加している。参加者へのアンケートでは、満足度が各講座とも95ポイントを超えており、公民館が生涯学習の拠点としての役割をしっかりと果たしていることを実感する。今後も市民のニーズを取り入れながら、さらに充実した事業が展開されるように期待する。

（３）スポーツ振興「生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくり」

阿波シティマラソンやスポーツフェスティバルの開催等、市民が運動に取り組む機会を広げようとする事業が行われている。昨年度までは、コロナ禍の影響により、市民が運動する機会も減少していたと思われるが、令和5年度のような各イベントを継続することで、市内外からも参加者が増えてくるのではないかと考える。広報やケーブルテレビ等を活用

し、広く粘り強く情報を発信しながら、参加者が少しでも増えるよう継続していただきたい。また、市内各スポーツ施設の開放をはじめ、いつでも、どこでも、だれでもが気軽にスポーツに親しめるような機会も設けていただきたい。

（４）芸術・文化振興「郷土を愛する心と想像力が育つ、市民主体の文化芸術活動の促進」

阿波市文化祭をはじめ、文化協会を中心に学校や各団体とも共催しながら実施できおり、市民が文化・芸術に親しむことができるよい機会となっている。また、各種催しをケーブルテレビ等を活用し、多くの市民が鑑賞できる機会が設けられていることは大いに評価できる。

また、文化財の保存・活用についても、古墳発掘の展示会や藍のふるさとパネル展の開催、文化財ガイドブックの作成・配布等、積極的な有効利用に取り組んでいる。歴史館や資料館の利用者も増加しており、成果が表れている。今後も、阿波市の先人や貴重な文化財から多くのことを学び、ふるさと阿波市を誇りに思い、阿波市で活躍する人材の育成を期待する。

（５）青少年健全育成「青少年の健全な生活を守り抜く環境づくり」

青少年の健全育成の推進については、育成センターが中心となり、警察や学校等と連携を強化して積極的に活動に取り組んでいる。環境美化活動では、各学校の実情に応じた支援体制ができている。講演会の実施に関しては、「見直しのうえ継続する」との方向性が示されている。これについては、今後の方針に述べられているように、それぞれの学校の実情に応じた取り組みが支援できるように改善できればと考える。また、参加対象が中学生だけとなっているが、校区内の高学年児童等も参加できるような実施形式とすれば、小学校と中学校の連携も一歩進むのではないだろうか。

青少年健全育成の土台はなんといっても家庭である。今後とも、さらに保護者や家庭に向けての啓発活動を充実していただくようお願いしたい。

（６）人権教育・国際理解「多様性を育み、互いに尊重し、つながりを実感できる社会づくり」

人権学習・啓発の推進については、市民を対象とした人権啓発講座（２０１名参加）、人権フェスティバル（２７４名参加）、人権問題講演会（３３２名参加）等、多くの参加者を得ており、その成果は上がっている。また、ばわーあつぷ事業についても、地域や学校からのニーズに応え、充実した取り組みになっているように感じる。今後も、市民の人権意識のさらなる向上をめざして、継続して事業に取り組んでいただきたい。

国際感覚豊かな人材の育成と国際交流については、英会話教室や韓国語講座を実施し、その開催回数も増加している。市民の中には、英会話に関心があったり、外国文化への興味があったりする人も多々いると思われる。興味・関心のある市民が、気軽に参加できるような実施方法や参加の呼びかけを工夫して、より充実した事業となるように期待する。

おわりに

阿波市第２次教育振興計画（前期計画）令和５年度実施の全事業に対する評価結果について、私なりの所見を記述しました。本計画に基づき、多岐にわたる事業を少しでも向上させようとご尽力いただいております阿波市教育委員会ははじめ教育行政に携わる皆様に心から敬意と感謝を表します。

この阿波市でも、少子高齢化をはじめ個人の価値観の多様化、グローバル化等も急激に進んでいるように実感します。この時代の変化をチャンスと捉え、今まで積み重ねてきた多大なる成果をもとに、阿波市ならではの施策も大切にしながら、各事業がさらなる充実した取り組みとなるよう期待しています。